

備前市事務事業評価表

事務事業名	図書館運営事業		コード	03-02-05-01
			担当課・係	市立図書館
			担当者	大森直子
事業実施期間			電話	0869-64-1133
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	地域文化と人が輝くまちづくり		
	中項目(基本施策)	生きがいのあるまちづくり		
	小項目(施策)	図書館（図書館の充実）		

事業について	
目的 (何のために)	図書、記録、その他必要な資料を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資する。
対象 (誰・何を対象に)	市内在住・在勤の市民
内容	図書の貸出、レファレンス・サービス(各種問い合わせ対応)、移動図書館の巡回、幼児や児童への読み聞かせ会、講座、ブックスタート(乳児を持つ保護者に絵本を手渡し、絵本の楽しさを知ってもらふ事業)、読書推進行事等の実施。

事業の結果				
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)	
図書の年間貸出実績	111,786 冊	121,535 冊		
入館者数	48,192 人	42,818 人		
読書啓発行事参加人数	2,547 人	2,953 人		
ブックスタート参加人数	572 人	584 人		
レファレンス件数	6,536 件	6,447 件		
事業費 (単位：千円)	事業費	財源	事業費	財源
	直接事業費 17,949	間接補助金等	直接事業費 24,176	間接補助金等
	人件費 10,412	受益者負担 市債	人件費 16,235	受益者負担 市債
	合計 28,361	一般財源等 28,361	合計 40,411	一般財源等 40,411

結果指標	結果指標名	図書の年間貸出実績	図書の年間貸出実績	
	結果指標量	111,786	121,535	
	単位	冊	冊	
	対前年比	-	108.72%	0.00%
結果指標	活動にかかるコスト	28,361,000 円	40,411,000 円	
	単位当たりコスト	253 円	332 円	
	結果指標名	入館者数	入館者数	
	結果指標量	48,912	42,818	
結果指標	単位	人	人	
	対前年比	-	87.54%	0.00%
	活動にかかるコスト	28,361,000 円	40,411,000 円	
	単位当たりコスト	579 円	943 円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	様々な知識や多様な情報を市民に提供する施設として、また生涯学習の場として図書館の利用を促進する。		
成果指標名	図書の1人あたりの貸出冊数	1人あたりの貸出冊数 = 貸出冊数 / 人口	
	17年度	18年度	
成果指標量	2.7	3	
対前年比	-	111.11%	
到達目標値	3.5	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 市立図書館条例第3条	妥当性評価 < A - E > 課題認識 C
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	合併に伴い利用地域が拡大したこと、今年度より自動車文庫の巡回箇所が増えたこと等により、更なる利用が見込まれる。また、ブックスタートに行った際に若い母親に図書館の場所を尋ねてみると知らない方や、知っていても利用したことがない方(未来館者)が多い。もっと図書館の場所やサービスをHPや広報等を使って周知する必要がある。
市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である		
市の関与の妥当性	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	効率性評価 < A - E > 課題認識 B
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	
効率性の評価	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	図書整備については、購入計画、収集方針に基づいて行っているが、年々多様化している利用者の要望にこたえるためと図書の効率的な活用のため、岡山県相互貸借システムと巡回サービスを利用し、県内の図書館とも協力してサービスを行っている。また、職員も時々集まり、よりよい図書館運営のために研修会や連絡会をしている。
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価 < A - E > 課題認識 C
	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上の見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	各種媒体により、図書館の本の紹介、催し物のお知らせを行っているが、HPやケーブルTVを活用して更なる広報活動が必要である。定期的に行っている読み聞かせは、地域のボランティアの方々との協力により定着してきている。また、ブックスタートの活動も後日図書館へ来館するきっかけとなっている。
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	貸出冊数や読み聞かせ参加人数は、前年度と同じ程度だが、今年度から自動車文庫の巡回箇所が増えたため、貸出冊数(H18.4～5月が594冊155人、H19.4～5月1,080冊275人)が増えている。利用者の意見を参考に巡回内容など検討したい。また、ブックスタートの際、図書館だよりを配りPRに努めている。	
目標値	結果指標量	150,000冊	結果指標量	50,000人
	成果指標量	3		

総合評価	図書のリクエストは相互貸借や巡回サービスを利用し要望にこたえることができた。読み聞かせ会は定着しているが少子化の中、人数を集めるのが難しくなりつつある。ボランティアの方と相談して内容を検討したい。平成18年度より3館そろう図書システムがスタートし、データから館毎の層層や利用の多い図書なども分かるようになってきた。これを図書の収集に活かし、どのような工夫をすれば利用者が増えるかを司書間で話し合う必要がある。	評価区分 < A - E > C
------	--	------------------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了
--------------	---	---	--

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	HP、館内外での催し物の掲示等による利用者への図書館サービスの周知徹底。	平成19年度	図書館の様々なサービスや読書活動の周知によって、より幅広く利用されるようになる。
効率性	図書館協会の相互貸借の参加、県立図書館資料の貸出・返却の受付サービス。	平成19年度	相互貸借により、図書の有効利用ができる。県立図書館の受付サービスにより、新規登録者が見込まれる。
有効性	子どもの読書活動推進のため各種行事を行う。	平成19年度	乳幼児から小学生までを対象に読書の楽しさ知り、読書の習慣を養い、将来の利用向上を図る。